

2022年12月8日

総合物流の枠を超え、ニュージーランドでイチゴ栽培

12月19日 現地で初収穫記念式典開催



当社は、2020年9月、創業100年を迎えた大阪に本社を置く「総合物流会社」です。国内拠点55か所、国内グループ会社33社、海外グループ会社19社を有し、売上額は、グループ全体で年間1,456億円(2021年)となっています。社会インフラである国内外の物流を支えており、これからは、単に「モノを運ぶ」だけではなく、自ら「モノ作り」を行い、商品の生産と出荷、販売、技術の伝授など、「ワンストップ・オペレーション」を構築し社会的責任を果たしていきます。

その一つの取り組みが、今回のニュージーランドでのイチゴ栽培です。12月19日11時から、ニュージーランド北島・ホークスベイに設立した当社子会社の「辰巳ニュージーランド」で初収穫記念式典を開催します。(場所 31 Richmond Road Clive 4180 New Zealand)

式典には、在ニュージーランド日本大使館の伊藤康一・特命全権大使、日本ニュージーランド経済委員会委員長のイアン・ケネディ氏をはじめ多くの来賓をお招きし、最新設備のメガガラス温室栽培の内覧会も行います。



写真④ 「いつでも、どこでも、誰にでも」スマート農業に挑戦

写真⑤ 農業先進国オランダの高度環境制御ガラス温室を採用

四季が異なる南半球で「6次産業化」を目指す

当社がニュージーランドでイチゴ栽培に取り組むきっかけとなったのは、農業生産法人（株）JAS（千葉県南房総市：社長 寺川広貴氏）との邂逅に遡ります。JAS社は、IoTを駆使し、イチゴの生産から加工、流通、販売まで一貫して手掛ける「6次産業化」を目指していました。同社によると、日本国内でのイチゴの旬は冬から春にかけての時期。しかし、誕生日やウェディング用のケーキの必需品とされるイチゴの需要は、年間を通じて高いといえます。

「夏場のイチゴは冬のイチゴに比べて味が劣る上に供給量も少なく、日本と逆の季節の南半球でイチゴが栽培できれば、旬のイチゴを必要数量日本に輸入し、国内需要を満たすことができる」。

当社は2018年JASに出資（2021年増資）し、南房総市でイチゴの生産・販売に参画する一方、2019年11月、ニュージーランド北島のネイピアに「辰巳ニュージーランド」を設立しました。約40,000㎡の土地に20,000㎡のメガガラス温室を建設し、JASの生産方式を取り入れたイチゴ栽培に取り組み、この度初収穫を迎えることになったのです。

既存の現地イチゴ栽培は、露地栽培が主流で、品質・収穫量が天候に大きく左右されるだけでなく、収穫期が春から夏（10月頃から2月頃まで）と限られます。当社はガラス温室栽培を採用する事で、安定した品質・収穫量の確保と通年収穫を目標としています。JASが独自に開発した液体肥料と培養土を使った栽培は病気のリスクが少なく、IoT技術を使って、温度、湿度、液肥量など、ニュージーランドの農場を日本からの遠隔操作により管理します。現地のイチゴ協会は当社の取り組みに注目しており、通年雇用につながることから、New Zealand Heraldなど現地メディアでも盛んに取り上げられています。

また、日本のイチゴ栽培従事者は、農閑期を利用して、ニュージーランドで働くことが可能になります。

取材を希望される方は、別紙取材申込書に必要事項を記入し、辰巳商会海外関連事業部（FAX 06-6576-1848 E-mail：NFukumori@tatsumi-cs.co.jp）福森までご連絡ください。



株式会社 辰巳商会

〒552-0021

大阪市港区築港4丁目1番1号 辰巳商会ビル 3F

TEL 06-6576-1840 FAX 06-6576-1848

E-mail : NFukumori@tatsumi-cs.co.jp

http://www.tatsumi-cs.co.jp

辰巳ニュージーランドレセプションパーティー 参加申込書

いずれかを○で囲んでください

当日参加

後日取材（希望日時） 月 日 時

【連絡先】

会社名 _____

取材者 _____

住所 〒 _____

電話番号 _____

FAX 番号 _____

メールアドレス _____